

防風林管理と生物多様性保全機能の普及を目的とした体験プログラム — 樹木の香水づくりと植物標本づくり体験の組み合わせ —

森林がもたらす生物多様性保全機能のさらなる発揮は、「ネイチャーポジティブ（生物多様性減少に歯止めをかけて回復傾向に反転させること）」と呼ばれる国際目標を達成するための重要な要素の1つです。目標達成に向け、森林の生物多様性保全機能に対する一般の方々の理解を深め、普及を図る取り組みの重要性も増えています。林業試験場では、北海道の身近な森林である防風林に生育する樹木の「香水」と「植物標本」の同時作成体験を行い、防風林本来の役割とともに防風林の管理が育む生物多様性の普及・啓発を行う新しい体験プログラムを考案しました。本プログラムの特徴は、香水と標本づくりの体験とリンクさせた防風林本来の役割・機能の説明によって、視覚・嗅覚・触覚に紐付いた知識が得られることです。これによって、子どもから大人まで幅広い年齢層に身近な森林の働きについての理解促進が期待できます。本プログラムを実施した道南江差町では、地元の防風林と周辺で生育する6種類の樹木（カラマツ・ヒノキアスナロ・スギ・エゾヤマザクラ・オオバクロモジ・キタコブシ）を用いて、香水と標本づくりを体験してもらいました（写真-1）



写真-1 防風林の樹木から抽出した香りとおもちゃ標本を用いた解説資料

本プログラムの樹木の香水づくり体験では、上記6樹種の葉や枝を実験室内で蒸留し、水溶液にした芳香蒸留水を用いました。気に入った芳香蒸留水は、数種類組み合わせるとオリジナルの香水をつくることができ、香水作成後はお土産用の香水携帯用ボトルで持ち帰ってもらいました（写真-2）。植物標本づくり体験では、香水づくり体験の樹種と対応させ、予め採集した実物の枝・葉・花を用いました。植物標本は、シリカゲルシートとラミネートシートを組み合わせると簡易的に作成し、香水とセットで持ち帰ってもらいました（写真-3）



写真-2 防風林の樹木の香りの解説（左）
と香水携帯用ボトル（右：持ち帰り用）



写真-3 防風林の植物の解説（左）と
作成した簡易植物標本（右：持ち帰り用）

今回の体験には80名以上が参加し、アンケートに回答して頂いた24名のうち70%が女性で、防風林の管理と生物多様性保全の関係が「理解できた」と回答された方は83%でした。特に子どもたちは、作成した香水と標本を嬉しそうに持ち帰ってくれました（写真-4）。林業試験場では、本プログラムを活用し、身近な森林の生物多様性保全機能の普及を続けていきます。



（森林環境部 環境G 速水将人・橋本朝陽・脇田陽一） 写真-4 体験後の子どもたち

林業試験場 本 場 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
道東支場 TEL 0156-64-5434
道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
ホームページ <https://www.hro.or.jp/forest/research/fri/index.html>
facebook <https://www.facebook.com/ringyoshi>

発行年月 令和7年9月
発行 地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
森林研究本部 林業試験場
〒079-0198 美幌市光珠内町東山